

地域とともに育つ 学校づくりの推進

コーディネーターの機能を生かし、ボランティアによる学校支援活動を充実させましょう。

～ 平成20年度指定地域：吉井町、中之条町の取組から ～



コーディネーターによる区長会での事業説明の様子

文部科学省では、今年度より新たに、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することを目的に「学校支援地域本部事業」を立ち上げました。学校支援地域本部は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織です。それぞれ学校支援地域本部では、「コーディネーター」が学校とボランティアの連絡調整をします。

＜コーディネーターの主な仕事＞

- ◇ボランティアの募集に関すること
- ◇ボランティアの支援を得た学校の諸活動の円滑な実施に関すること
- ◇ボランティアの支援を得た学校の諸活動の普及・啓発に関すること
- ◇ボランティア活動にかかわる



群馬県教育委員会では、平成16年度から、地域の教育力を有効に活用するための拠点となる「学校支援センター」の設置とその運営推進に努め、県内のすべての市町村立小・中・特別支援学校に設置されています。



学校支援地域本部事業は、学校支援センターを地域の側から見直すものです。地域の方にボランティアとして学校の教育活動にかかわっていただくことは、ボランティアの方にとっては、知識や技能を生かす場となり、自己実現や生きがいづくりになります。さらに、地域の活性化や、学校を核にした地域づくりを推進することにもつながります。



Q1 学校支援地域本部は、どこにありますか？

A | 学校支援地域本部は、多くの場合、中学校を単位として置かれますが、学校ごとに置くことも可能です。

<吉井町 1つの学校に置いた例>

吉井町の学校支援地域本部は、吉井西小学校に設置され、名称は「吉井西小学校学校支援センター」です。

ここでは、コーディネーターが5名います。そのうち、4名は保護者、1名は昨年度までの保護者です。



<中之条町 中学校区に置いた例>

中之条町では、2つの中学校区ごとに、「東部学校支援地域本部（中之条中学校、中之条小学校、伊参小学校、名久田小学校）」と「西部学校支援地域本部（西中学校、沢田小学校）」を設置しています。各本部には、コーディネーターが1名ずついます。2名とも、元中学校の管理職で、行政経験（社会教育関係）があります。また、地域でも積極的に活動している方です。

Q2 どのようにコーディネーターをお願いしましたか？

A | コーディネーターには、特に資格は必要ありませんが、地域と学校双方の実情をよく知っていて、その上で連絡調整ができることが求められます。例えば、PTAの元役員や退職した教職員などが考えられます。

吉井町

吉井西小学校は、平成18年度学校支援センター運営推進事業モデル校の指定を受けていました。そのとき、コーディネーター（嘱託員）を決めるに当たり、**学校の教育活動に関心があり、ある程度内容が分かり、学校の立場も尊重して下さることが重要であると考え**、学校の近くに住んでいて、日常の学校とのやり取りから適任と判断した保護者の方に依頼しました。

指定終了後は、嘱託員からボランティアとなるので、負担軽減から、19年度は4人、20年度からは5人のコーディネーターで運営しています。20年度、5人にするに当たっては、コーディネーター同士の推薦としました。これは、コーディネーター同士の人間関係にも配慮したからです。

中之条町

中之条町では、伊参いさま小学校（平成16年度）と名久田なぐた小学校（平成18年度）が上記モデル校の指定を受けました。このときできた人材バンクの整備や他校も含めた町全体の教育資源（人材・施設等）のレベルアップと「職場体験学習の充実」という目的のもと、本事業を展開していくことを考えました。

コーディネーターを決めるに当たって、**学校、地域、さらには、行政のことにも精通している人材が必要であり、また、校長とコーディネーターとの共通理解が図れることも重要であると考えました**。そこで、退職された学校の教員で、社会教育にかかわる行政経験があり、さらに、中之条町で生活し、地域の諸活動にも積極的にかかわっている方に依頼しました。

Q3 どのように学校とかかわってもらっていますか？

A | 学校支援地域本部事業では、コーディネーターは、各地域本部の実情に応じて、勤務していただくことになっています。

<吉井町の場合>

5人のコーディネーターがいるので、8：30～12：30まで、曜日を決めて、1週間に1日ずつ交代で学校に来ています。

コーディネーターが学校に常駐することで、ボランティアが活動の前後で気軽に問題点等を話していかれます。コーディネーターもボランティア活動の様子を見ることができ、成果や課題を直接確認することができます。

<中之条町の場合>

両コーディネーターは複数の学校を兼務しているため、特定の学校ではなく、月、水、金曜日を基本とし、週3日程度、8：30～17：15まで、吾妻郡生涯学習センター（ツインプラザ）で勤務しています。このような勤務形態により、教育委員会や各種団体と連絡が取りやすい、コーディネーター同士で情報交換、情報の共有ができるなどの利点があります。



ツインプラザに勤務する2名のコーディネーター

Q4 仕事を進める上での留意点は何ですか？

A | 学校からの依頼内容を明確にして、ボランティアの方へ伝えます。

・「どこまでお手伝いしたらいいかわからない」「こんなことまでしていいのかな」「お願いしたかったことと違う」といった思いをお互いにもたないようにするためには、依頼内容を明確にして伝えることが大切です。

A | 「活動を継続させること」を念頭において、コーディネートします。

- ・継続させるためには、教職員や児童生徒にとって「来てもらってよかったな」、ボランティアの方にとっても「来てよかったな」という気持ちになるようにすることが大切です。
- ・ボランティアの方にとっては、子どもと直接かかわって、子どもの声が聞けることが継続の大きな原動力となるようです。
- ・ボランティアバンクに、登録していただいた方には、できるだけお願いするとともに、「この活動のときには、この方に」ということが引き継げるように整理しておくことが大切です。



ボランティアによる図書整理

A | 学校とコーディネーターの共通理解を図ります。

・学校とボランティアの方と、双方にとって意義がある活動にしていくためには、コーディネーター自身が、いろいろなボランティア活動における学校の考えを十分理解することが大切です。

* 吉井西小学校では、月に1回、学校とコーディネーターの打ち合わせ会議をもっています。また、年に1回、学校・ボランティア・コーディネーターの連絡協議会をもっています。

A | 守秘義務に気をつけます。

・仕事をする上で、知り得た個人情報等について口外しないことは、言うまでもありません。

Q5 コーディネーターが入るよさは何ですか？

A | 多くの学校で抱えている課題の解消ができます。

- ・多くの学校で課題として挙げている「人材や打合せ時間の確保」や「日程調整」(裏面『地域の教育力の活用状況』5課題) 参照) を行うことで、教員が子どもと向き合う時間を増やすことができます。
- * 吉井西小では、職員室にポストがあり、そのポストの中に、教員が要望を書いて入れておくと、それを見たコーディネーターが人材確保と打合せを行い、その結果をスケジュール表(黒板)に書いておきます。

ボランティアスケジュール

学年	日	時間	内容	担当者
16	16	16	16	16
17	17	17	17	17
18	18	18	18	18
19	19	19	19	19
20	20	20	20	20
21	21	21	21	21
22	22	22	22	22
23	23	23	23	23
24	24	24	24	24
25	25	25	25	25
26	26	26	26	26
27	27	27	27	27



職員室内にあるポスト

ボランティア依頼書

依頼日	1月17日
学年	3年
依頼内容	読書会
依頼人	校長 佐藤 太郎

A | ボランティアと学校のクッション役ができます。

- ・元保護者であれば、保護者と地域の一員という両方からの目線で、アドバイスしてくれます。
- ・元教員であれば、学習の進め方や学校の都合が分かり、授業に配慮したアドバイスをしてくれます。

A | ボランティア活動が日常化できます。

- ・コーディネーターが常駐し、ボランティアの調整を専門にやってくれるので、ボランティア活動をスムーズに行うことができます。また、情報交換も充実します。

Q6 今後の課題は何ですか？

- A | 両町とも、学校支援地域本部事業終了後も、継続させていくためのシステムづくりが課題のようです。各学校においても、以下のようなことに取り組み、地域とともに育つ学校づくりを一層推進していきましょう。

- 地域とともに育つ学校のよさを共感することで、人材を確保していくこと
- 学校の事情が許す限り、ボランティア活動の拠点となる場所を確保していくこと
- 様々な情報を電子データで蓄積し、次年度に引き継げるよう整理していくこと
- 先生方に負担感を越えたよさがあることを伝えていくこと

コーディネーターやボランティアの方に入っていただくことにより、本来の業務以外に携わる時間が減り、子どもと向き合う時間が増えます。



警察署による教職員を対象とした不審者対応講習



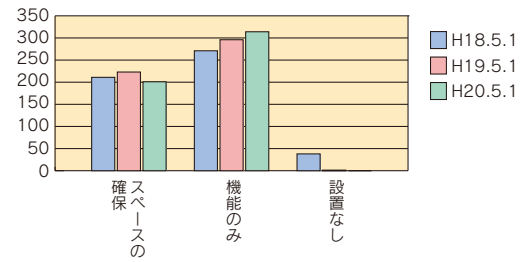
広域消防、町消防団ボランティアによるAEDを使った救命講習

平成20年度 地域の教育力の活用状況 平成20年5月1日現在

(調査対象：市町村立小学校・中学校・特別支援学校 計515校 ただし18,19年度は520校)

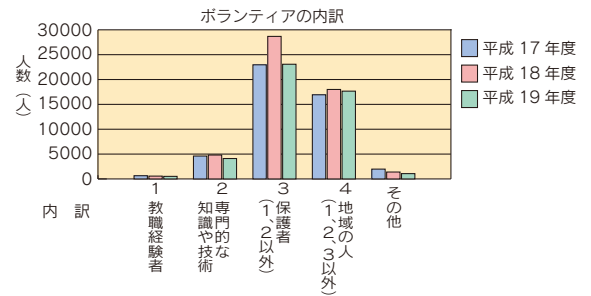
1 学校支援センター設置状況

	スペースの確保	割合	機能のみ	割合	設置なし	割合
H18.5.1	211	40.6%	271	52.1%	38	7.3%
H19.5.1	223	42.9%	296	56.9%	1	0.2%
H20.5.1	201	39.0%	314	61.0%	0	0.0%



2 ボランティアの内訳(人数)

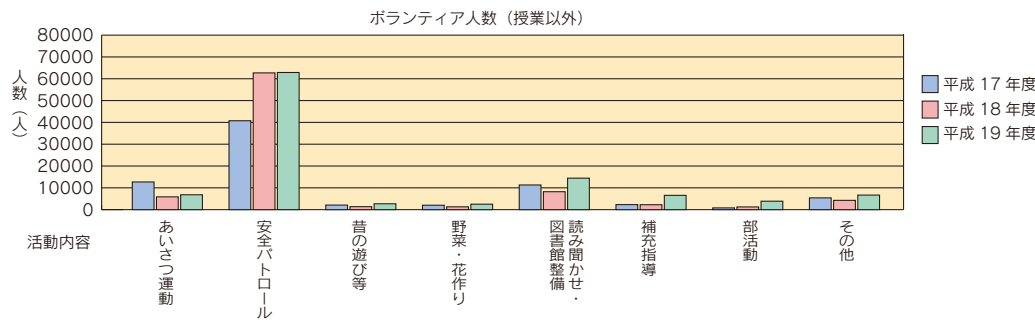
	1 教職経験者	2 専門的な知識や技能	3 保護者 (1, 2以外)	4 地域の人 (1, 2, 3以外)	5 その他	合計
平成17年度	648	4,609	22,962	16,932	1,978	47,129
平成18年度	570	4,809	28,677	18,000	1,390	53,446
平成19年度	518	4,107	23,074	17,661	1,069	46,429



3 学校におけるボランティアの人数

授業外

	あいさつ運動	安全パトロール	昔の遊び等	野菜・花作り	読み聞かせ・図書館整備	補充指導	部活動	その他	授業以外合計
平成17年度	12,698	40,757	2,099	2,037	11,315	2,306	813	5,406	77,431
平成18年度	5,898	62,686	1,362	1,298	8,222	2,258	1,245	4,266	87,235
平成19年度	6,816	62,877	2,695	2,506	14,442	6,556	3,877	6,678	106,447

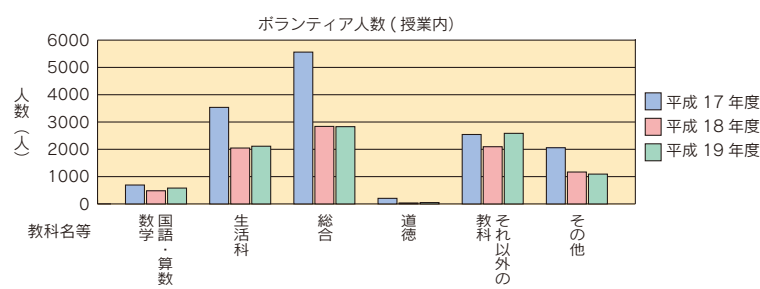


読み聞かせ

授業外の支援としては、小学校では「安全パトロール」「読み聞かせ・図書館整備」、中学校では「部活動支援」が多いようです。

授業内

	国語・算数・数学	生活科	総合	道徳	それ以外の教科	その他	授業内合計
平成17年度	692	3,536	5,561	204	2,543	2,058	14,594
平成18年度	481	2,047	2,839	35	2,095	1,168	8,665
平成19年度	580	2,113	2,830	50	2,585	1,092	9,250



安全パトロール

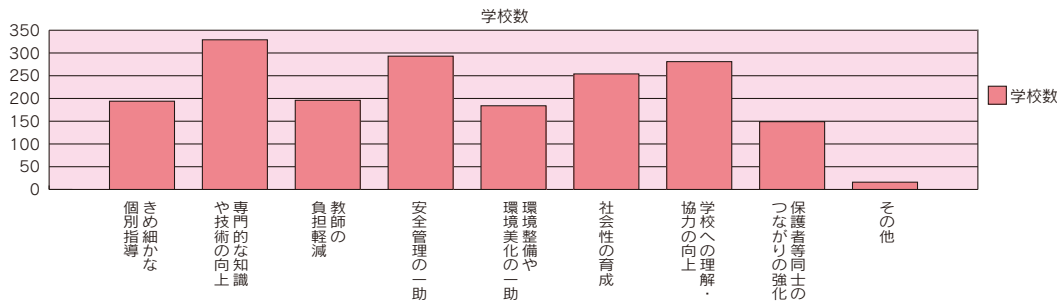


マナーアップ講座

授業では、小・中学校ともに、「総合的な学習の時間」で支援いただくことが多く、「環境」「福祉」「自己の将来」「伝統と文化」など、様々な課題に応じてお世話になっています。

4 成果（平成19年度・学校数）

成果	きめ細かな個別指導	専門的な知識や技術の向上	教師の負担軽減	安全管理の一助	環境整備や環境美化の一助	社会性の育成	学校への理解・協力の向上	保護者等同志のつながりの強化	その他
学校数	194	329	195	293	184	254	281	149	16
割合	37.3%	63.3%	37.5%	56.3%	35.4%	48.8%	54.0%	28.7%	3.1%



地域の方に支援いただいた成果として、6割以上の学校で、「専門的な知識や技術の向上」を挙げています。群馬県教育委員会では、「学力向上推進資料『意識調査の結果から見えた授業を変える12の提言』（平成21年3月）」の中で、外部の方に支援いただく例として、以下のような事例を掲載してあります。子どもたちの学習意欲を向上させ、「授業が分かる子ども」を増やすためにも、地域の方に支援いただくことはたいへん有効であると考えています。

事例1 専門的な立場から、児童生徒の発表等に対して助言をもらう

題材名 「感染症の予防」：中学校3年保健体育 講師：学校医

事例2 授業のねらいに適した実体験を話してもらう

単元名 「天気の変化」：小学校5年理科 講師：気象庁職員OB

事例3 高度な技能を披露してもらい、技術指導してもらう

題材名 「友だちの顔（头像）」：小学校6年図画工作 講師：地元の芸術家

事例4 専門性を生かした体験的な活動をさせてもらう。

単元名 「もののかさと力」：小学校4年理科 講師：ロケットクラブの会員

5 課題（平成19年度・学校数）

課題	打ち合わせ時間の確保	日程調整の難しさ	意識のずれ	守秘義務	学校内での役割分担	ボランティアリーダー等の育成	必要な人材の確保	その他
学校数	273	216	65	21	61	292	227	11
割合	52.5%	41.5%	12.5%	4.0%	11.7%	56.2%	43.7%	2.1%

「学校支援センターの手引き（平成18年度群馬県教育委員会）」の中で、「ボランティアリーダーは、ボランティア団体等の代表で、ボランティアの取りまとめ役となって活動内容や日程調整等を担当する人、コーディネーターは、学校と地域の橋渡し役となり、ボランティアの募集等を行う人、また、ボランティアリーダーとコーディネーターは兼ねることもあります。」と説明しています。ボランティアリーダーの育成は、右のような状況で、課題としている学校が多いようです。

ボランティアリーダーの育成（学校数）

	育成できた	割合
平成17年度	135	26.0%
平成18年度	121	23.3%
平成19年度	100	19.2%

